

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 地域農業振興課
評価対象期間	平成28年4月1日～令和2年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館	施設種別 農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1	
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。	
指定管理者	名称	(公社)大分県農業農村振興公社	
	代表者名	理事長 光長 伸彦	
	所在地	大分市舞鶴町1丁目4番15号	
指定管理業務の内容	①施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 ②農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ③農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 ④農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 ⑤農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 ⑥その他知事が特に必要と認める業務		
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日(5年間)		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		28
(1)施設の設置目的の達成	20	3	12
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。			
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】 〈大分農業文化公園〉			
○ 令和元年度の入園者数は293,713人で、平成30年度より54,559人増加したものの、目標指標330,000人に対する達成率は89.0%となった。平成28年度からの令和元年度までの年間平均入園者数は257,402人で、目標指標に対する達成率は78.0%であった。しかし、周年を通じたイベントの実施や、植栽のゾーニングによる見所づくりなど、入園者数の増加に向けた取組みを行っていることは評価できる。			
○ 利用者の増加を図る取組として様々な自主事業を実施している。毎年おこなっている季節のイベント(夏休みこどもパーク、収穫祭など)に加え、各種イベントを実施しており、実施数も計画を上回っている。また、イベントのマンネリ化を防ぐため定期的にイベントの差し替え、内容の変更をおこなうなど工夫をおこなっている。平成30年度からは更なる利用者増、満足度向上のため、ネモフィラブルーフェスタを開催し令和元年4月の入園者数は52,387人(前年比150%、+17,345人)で過去最高となり、利用者増加に結びつけている。			

- 平成30年11月から宿泊施設(コテージ、ログハウス、キャンプ場)のネット予約を開始しており、導入後は予約のほとんどがネット予約となった。これにより、これまでの電話予約では職員の対応時間が一件15分程度要していたが、ほぼゼロとなり大幅な労力軽減が図れるとともに、利用者の利便性も向上され利用者数も増加し前年比110%となっている。また、園内入り口のマップのリニューアルや、案内表示の多言語化を図るなどの利用者に分かりやすくする取組も評価できる。
- 営業・広報活動については、保育園・幼稚園、福祉施設、旅行会社などに集客のための働きかけをおこなっている。さらに県北地域や北九州地区の企業に訪問をおこなうなど、園長・担当ともに積極的に営業活動をおこなうことで、団体客の誘致・県外からの来園者獲得にも取り組み、集客に結びつけている。また、ホームページ上で施設の紹介、イベントや講座開催の案内を行い、ブログ等でも開催状況などを紹介している。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 研修館の利用者数については、平成28年度25,045人、29年度34,068人、30年度32,503人、令和元年度31,627人となっており、平成28年度以外は前指定期間(H23～H27)平均の27,542人を上回っており評価できる。
- 利用者の増加を図る取組としては、次のような取組を行っている。
 - ①講座の案内パンフレットを前年度利用者に配布してリピーターの増を図っている。
 - ②子供向け体験講座や特性を生かして農業の専門技術講座を増やすなど、研修参加者のニーズの変化に対応した講座の編成を行っている。
 - ③県内の市町、JA、公民館などに加え、旅行会社や企業に貸館を積極的にアピールし、パンフレットを配布するなど周知を図っている。
 - ④定期的にマスコミ等を訪問し、PRに努めている。

(2)利用者の満足度

①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組がなされたか。

③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。

④利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

20

4

16

【評価の理由】

〈大分農業文化公園〉

- 令和元年度に農業文化公園の入園者を対象にアンケートを実施したところ、34%が「大変満足」、51%が「ほぼ満足」、13%が「普通」、1%が「やや不満」、1%が「大変不満」という結果であり98%が普通以上の評価となっている。平成30年度のアンケート結果(普通以上95%)と比較しても、利用者の満足度の向上、不満の減少が見取れる。また、アンケートの集計数が平成28年度の909件、29年度の1,000件、30年度は725件に対して令和元年度が3,272件と集計数が増加している点は評価できる。
- より細かな分析をおこなうために、アンケート用紙の記載内容を見直すなど工夫をし、得られたアンケート結果から効率的な広報活動や魅力的なイベントの企画に役立てていると評価できる。アンケートで要望があった、宿泊場所を増やしてほしい、飲食メニューを増やしてほしいなど、利用者からの意見、要望を受け、フリーサイトキャンプ場の新設や豊の国物産館のメニューを増やすなどの取組が行われている。
- 利用者への情報提供としてはホームページによる施設の紹介、イベント・講座の案内、SNSを活用した情報提供に加え、各種広告媒体(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等)による、イベント・講座の告知活動などを実施してきた。また、営業活動を通じて情報提供に努めている。
- 〈大分県都市農村交流研修館〉
 - 目標指標である「受講定員充足率」は、平成28年度98%、29年度100%、30年度99%、令和元年度95%で、目標の95%を上回っている。また、5段階評価の「研修満足度」も、平成28年度4.7、29年度4.7、30年度4.8、令和元年度4.8で、目標の4.5を上回って推移しており、いずれも評価できる。
 - 各講座の受講生に対し、随時、アンケート調査を行っており、講座受講生の声を反映して、毎年講座の内容の見直しを行っており、幅広いニーズに対応した講座編成が図られ、受講生の充足率や満足度が高いレベルで維持できていると思われる。

2 効率性の向上等に関する取組み	30		24
<p>(1)経費の低減等</p> <p>①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。</p> <p>②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。</p> <p>③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。</p>	20	4	16
<p>【評価の理由】</p> <p>〈大分農業文化公園〉〈大分県都市農村交流研修館〉</p> <p>○ 施設の管理運営に関し、経費(主に光熱水道費)を縮減するための取組がなされている。水道光熱水費は令和元年度は17,110,164円であり、平成30年度の18,747,943円から1,637,779円減少した。これは令和2年3月に新型コロナウイルスで一部施設を利用休止したことも要因であるが、日常の節減効果によるところも大きいと考えられる。</p> <p>○ 年間支出合計については、令和元年度は前年度より9,957千円減少した。これは平成31年4月1日からの対面販売売上取扱い方法の変更(全額売上計上→手数料分のみ売上計上)が主な要因であると考えられる。会計監査からの指摘で変更したが、事務の時間短縮と振込手数料等の削減→年間約50時間程度削減(変更前:全額売上計上→90%を仕入計上→販売業者から仕入分(90%)の請求書をもらう→販売業者に支払い。変更後:10%を販売手数料売上計上のみ)と人件費等の面からも大きな効果が出ている。</p> <p>平成31年4月1日から実施。そのほかにも平成30年度からは、運営の効率化のためパートや職員の出勤時間の見直しや、作業委託を減らすために「公園うつくし作戦」として、職員によるトイレ清掃・一斉作業、喫煙所の集約化などに取り組んでいる。</p> <p>○ 草刈業務の見直しによる経費削減も大きい。令和元年度から委託をやめ、内製化をしたことで概ね年間710千円削減。</p> <p>内製化した令和元年度にパート2名増員→乗用型草刈機・園内移動車追加導入(リース)→パート1名減員という手順で見直しを実施し、最終的に、パート職員1名増と機械導入でカバーできるようにしている。</p>			
<p>(2)収入の増加</p> <p>①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。</p>	10	4	8
<p>【評価の理由】</p> <p>〈大分農業文化公園〉</p> <p>○ 令和元年度の売上額は86,803,310円であり、平成30年度の80,685,168円から6,118,142円増加した。しかし、入園者一人あたりの販売単価は令和元年度が296円であり、平成30年度の337円とくらべ減少している。これまでに飲食収入を伸ばすことを目的として、公園で生産した農産物を活用した、ジュースやソフトクリームなどの目玉商品開発や、イベントに関連した商品の開発など収入増加に向けた取組をおこなっていることは評価できる。</p> <p>○ 平成30年度からJA直売所「ふれあい市場」を豊の国物産館に移設し直営化したことで、令和元年度の売上は5,147,284円となっており、非常に効果がある。</p> <p>○ 施設利用についても、コテージ・キャンプ場等の稼働率を上げるために、積極的な営業活動を行うだけでなく、平成30年11月からネット予約も開始して県内外からの施設利用者を増やしている。</p> <p>〈大分県都市農村交流研修館〉</p> <p>○ 貸館利用収入は、平成28年度757千円、29年度1,074千円、30年度989千円、令和元年度911千円と900千円前後で増減を繰り返している。</p> <p>○ 一方で、施設の稼働状況は平成28年度48.4%、29年度53.3%、30年度54.3%、令和元年度47.9%と各年度とも50%前後となっており、まだまだ利用拡大の余地があり、より一層の利用拡大に向けた営業活動が求められる。</p>			

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30		24
<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況</p> <p>①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。</p> <p>②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。</p> <p>③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。</p>	15	4	12
<p>【評価の理由】</p> <p>〈大分農業文化公園〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入園者の多い土日祝日や、GW・夏休みなどの繁忙期に人員を多く配置するなど、業務量に応じた体制としている。 ○ 職員の資質・能力の向上に向けて目的別プロジェクトチームの設置や月一度の全体会議、課内でのミーティングを平成30年度から開始し、現在も継続している。 ○ 地域や関係団体等との連携や協働について、以下の取組みを行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・別府大学と提携し、夢米棚田プロジェクトの活動として、公園内の棚田で米及び七島イの植え付けから収穫を行った。 ・地元の自治会・学校など連携し、収穫体験などを実施し、地域との交流を図った。 ・令和元年11月からは、地域の農業応援と関係強化のため、地元である上地区住民自治協議会との連携で、初めて「新鮮産直市」を開催している。 <p>〈大分県都市農村交流研修館〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種講座には講師として農村女性をはじめ、地元の人材、食材、伝統料理を最大限に活用している。また、農業団体、NPO、県などと連携した研修会や農山漁村女性グループと連携したイベントの開催など、目的に沿った適正な運営が行われている。 			
<p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。</p> <p>②施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。</p> <p>③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。</p> <p>④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。</p> <p>⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。</p> <p>⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。</p> <p>⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。</p>	15	4	12
<p>【評価の理由】</p> <p>〈大分農業文化公園〉〈大分県都市農村交流研修館〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人情報の取扱いについて、公社策定の「個人情報保護規程」の徹底を図っている。入園者向けには「個人情報のお取扱いについて」と題した情報セキュリティポリシーを4箇所に掲示しており、その遵守に努めることとしている。なお、これまで漏洩等の事故は発生していない。 ○ 施設の利用受付に当たっては、施設設置条例及び関連規定等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取扱いを行っている。 ○ 安全管理については、施設管理や防火管理、事故対応マニュアル等を整備、またインフルエンザや食中毒、新型コロナウイルス等、特別の事象についても個別のマニュアルを整備している。 ○ エントランスにAED(自動体外式細動器)を設置している。 ○ 個人名を記入するアンケートは集計後にシュレッダーにかけるなど、個人情報の管理は徹底されている。 ○ 普通救急講習会をはじめ毎月研修・講習会を開催し、職員の資質向上に努めている。 ○ 防災訓練を、年2回、テーマを変えて実施するという工夫も見られる。 <ul style="list-style-type: none"> ①職員が全員揃った想定での訓練 ②職員が少ない想定での訓練 			

【選定委員の意見】

- ・広くて美しい自然環境を家族で楽しむことができるイベントなどが充実している。
- ・利用者の増加を図るため毎年創意工夫を行い、真摯に取り組んでいる様子を伺うことができ、特にネモフィラブルーフェスタは利用者の満足度や関心が高かったことが利用者人数に比例していると思われる。
- ・県内外の来園者に国東半島宇佐地域の世界的な農林水産業を紹介する場になっているのみならず、地域の大学等との共同を通じて世界農業遺産を理解・研究する場にもなっている。
- ・広大な施設を安心・安全の観点からも施設整備や環境整備に積極的に取り組んでいることが伺え、利用者ファーストを配慮していることも大きく評価できる。

【総合評価】

合計得点(100点満点)	76	評価ランク(A~E)	C
--------------	----	------------	---

〔評価の理由〕

〈大分農業文化公園〉

- 施設の管理運営については、法令や規則、マニュアル等に基づき適正におこなわれていると評価できる。入園者数は目標指標に対して未達であるが、県内外への広報活動の強化などに加え、ネモフィラブルーフェスタなど積極的にイベントを実施したり、植栽のゾーニングなどによる見所づくりを行うなど、利用者拡大に積極的に取り組んでいると評価できる。また、アンケート結果などからもこれまでの様々な取組の結果、利用者の満足度も高まってきていると評価できる。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 事業については、その設置目的にそって、より大分県都市農村交流研修館らしさを追求した講座の内容と地域人材の活用を進めてきた結果、講座によっては、他県からの受講生もあるなど、一定の成果をあげている。また、農山漁村女性のキャリアアップに向けた研修やイベントに積極的に取組み、女性の能力開発と経営意欲の向上に貢献している。

〔今後の対応〕

〈大分農業文化公園〉

- 引き続き県内外への広報活動の強化、イベントの工夫などに力を入れ、多くの人に訪れて頂くことの出来る公園作りを通じて年間利用者330,000人の達成を目指していく。
- 周年を通じた花や収穫体験イベントなど公園のコンセプトにそった事業を積極的に実施することはもちろん、これまで以上に創意工夫に富んだイベントや見所づくりを行うことで、より多くの利用者に訪れてもらい、農業に理解・興味を持って頂ける機会を提供できる公園となるために全職員が一丸となって取り組んでいく。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 事業については、引き続き、農業をベースに独自性と質の高さを追求した展開や農村女性の活動を支援する一助となることを期待する。
一般向けの貸館営業活動についても、企業等に積極的な営業を行い、今後さらに利用を推進していく必要がある。